

日本色彩学会誌

JOURNAL OF THE COLOR SCIENCE ASSOCIATION OF JAPAN

第43回全国大会要旨集

Special Issue the 43rd Annual Meeting

VOLUME 36 SUPPLEMENT 2012



巻頭言 一步，踏み出すこと

全国大会実行委員長 石田泰一郎

新緑の季節を迎え、京都の周囲の山には明るく、鮮やかな緑が一気に広がり始めています。それが一段落して緑がその深みを増し始めた頃、皆さんを全国大会にお迎えすることになるでしょう。とても清々しい季節です。

今回の全国大会を計画するにあたって、私は研究発表を充実させること、特に色彩学にとって重要と思われるテーマを前面に出すことを考えていました。例えば、**照明新時代のシンポジウム**の開催といくつかのオーガナイズドセッションの実施というアイデアでした。

ところが実行委員会を編成して議論を進める中で、様々な提案が出てきました。ひとつは**デザイン発表**です。いわゆる研究発表ではなく、色彩のデザイン事例や作品を発表できる場を作るべきだという発想です。「いいですね、是非、やりましょう。」それからアジアから研究者を招待して**国際シンポジウム**を開催するという提案です。アジアにおける学術交流を見通したヴィジョンが背景にあります。「重要ですね、やりましょう。」次いで、**国際コンファレンス**として一般発表も募集してはどうかと。「集まるかな、やってみましょう。」さらに、ポスター発表に口頭でのショートプレゼンテーションを設けてはどうか。「有益ですね、採用しましょう。」もちろん、そこには慎重な議論があったわけですが、おおよそそのような進行で今回の全国大会の枠組みが決まりました。

◇ ◇ ◇

巻頭言の題材を思案しているとき、今回の全国大会は何をしようとしているのか、ということに考えが及びました。そして、それは「一步，踏み出すこと」ではないかと私は思うようになりました。今回の新しい試みは、それぞれがその一步です。今いるところから一步を踏み出して

る。実行委員会ではそのことが肯定的に意識されていたと思います。

さて、すでに本誌の厚みを感じて頂いていることでしょう。今回、全国大会発表に多くの応募を頂きました。特に国際コンファレンスには国内外から23件という予想を超える数の発表申込がありました。デザイン発表という新たな試みにも応募を頂いています。これらは日本色彩学会のポテンシャルを実感するに十分なものでした。

今日、私たちは、踏み出す一步がどこを向いているのかさえ、よく分からない時代に向き合っています。色彩が私たちの生活と深く関わることを考えると、そこで色彩学ができること、なすべきことは多いはずです。国際シンポジウムのテーマ“Color science for our better life”は色彩を学び、実践する誰もが共有できるものだと思います。全国大会が、そこに集まった皆さんそれぞれの一步を踏み出す契機になれば幸いに思います。

◇ ◇ ◇

全国大会に対して描いていた私のイメージがもう一つありました。それは「学会らしさ」です。全国大会は確かに研究発表の場であり、それは情報交換として機能したり、業績として記録されたりします。しかし、ここで私が期待する「学会らしさ」は研究の面白さに触発され、刺激に満ちた場であることです。そこが原点です。全国大会で色彩学の面白さを感じとること、そこにも一步は存在します。

末筆になりましたが、全国大会の特別講演、招待講演をご快諾頂いた講演者の皆さん、研究発表者、そして聴講参加の皆さんを心から歓迎致します。また大会開催にあたってご尽力頂いた多くの皆さんに深く感謝致します。